

財団法人九州環境管理協会

代表者	持田勲
所在地	〒813-0004 福岡市東区松香台 1-10-1
設立年月日	1971年10月
URL	http://www.keea.or.jp/index-j.html

【設立趣旨】

1971年に公害防止に寄与する公益法人として発足しました。九州地域の諸大学と連携して、排水管理および処理、生態系や環境放射能管理、環境アセスメントとそれに続くモニタリング、環境計画・設計、文化財保存環境管理、さらに地球温暖化防止や環境科学技術意識の向上などの分野で技術や経験を深め、九州を中心に産学官の支援をいただいて、われわれの環境・文化財を守る啓発普及および調査研究を実施しています。

【沿革】

昭和45年12月 九州環境管理協会の前身「九州水質分析研究会」発足
昭和46年10月 九州環境管理協会の設立
平成15年12月 福岡県地球温暖化防止活動推進センター指定
平成17年9月 エコアクション21地域事務局認定

【活動目的】

当協会は、地域住民の健康と生活を守り、広く環境の保全と整備並びに産業の健全な発展に寄与することを目的として活動しています。主な具体的な活動内容は次のとおりです。

- (1) 地域の環境保全にかかる普及、啓発活動及び情報提供
- (2) 環境保全と整備にかかる調査、分析、研究及び計画、設計
- (3) 環境アセスメント、環境放射能並びに作業環境にかかる調査、分析及び研究
- (4) 廃棄物の資源化並びに処理の調査、分析及び研究
- (5) 水道法に基づく飲料水の水質検査及び施設の検査
- (6) 温泉法に基づく温泉の成分の分析、検査
- (7) 会誌、書籍等の刊行及び講習会、講演会等の開催
- (8) その他温暖化等、環境にかかる調査、研究、普及及び啓発
- (9) 内外関係機関との連絡及び協力
- (10) 前記各号のほか本会の目的を達成するために必要な事業

【活動内容】

●文化財保存環境管理

博物館・美術館・神社等の室内空気中アンモニア、ギ酸・酢酸および揮発性有機化合物等の化学物質調査(図1)、文化財害虫に関する同定や被害把握、IPM活動支援(図2～4)、その他の文化財劣化要因に関する調査研究等を行っています。九州国立博物館においては、室内空気中の化学物質調査等を行いました。空気中化学物質の分析手法、室内空気環境、昆虫分類、さらに文化財資料の科学分析に関する調査・研究等を行っています。その成果は国内外で学会発表または論文として広く公開しています。



図1 九州国立博物館における室内空気中化学物質調査(写真提供:九州国立博物館)



図2 九州国立博物館屋外での環境調査に関するボランティア研修支援(写真提供:九州国立博物館)

●文化財資料科学分析

当協会は文化財資料の科学分析を行っています。加速器質量分析法による土器付着物や木製品等の放射性炭素年代測定(図5)、EPMA、蛍光X線、ICP-MS法およびGC-MS法による土器や顔料等の組成分析、樹種同定、岩種同定、起源推定のための鉛同位体比分析や炭素・窒素同位体比分析等を行っています。実施事例として、長崎県鷹島海底遺跡出土碇の年代測定等を行いました。

●文化財施設の整備・計画・環境影響評価

文化財保存整備計画設計や、博物館・美術館等建設にともなう環境影響評価等を行っています。事例として、鴻臚館跡覆屋外整備設計(福岡市)、九州国立博物館建設にともなう環境影響評価(福岡県)等を行いました。



図3 九州国立博物館での昆虫観察に関するボランティア研修支援(写真提供:九州国立博物館)



図4 文化財害虫の同定と標本作成(写真提供:九州国立博物館)



図5 放射性炭素年代測定のための加速器質量分析(AMS)装置(写真提供:Center for Applied Isotope Studies, The University of Georgia)

【活動上の課題と今後の展望】

これまで文化財害虫やカビの防除で使用されてきた臭化メチルを含む燻蒸剤が禁止され、それにかわるIPM活動が求められています。IPM活動ではたんに文化財を害虫やカビから守ることだけではなく、長期保存を実現する管理体制を構築することが課題となります。そのため「文化財保存環境づくり」は緊急性の高い社会的課題との認識をもっています。今後は、大学、NPO法人、ボランティア団体等と協同関係を築き上げることが重要と考えています。